

1 主題

正直誠実・明朗 1-(4)

2 ねらい

いつも誠実に、明るい心をもって生活しようとする心情を育てる。

3 資料名

「手品師」（文溪堂 5年生の道徳 より）

4 主題設定の理由

（第5学年及び6学年）

1-(4)「正直誠実・明朗」誠実に、明るい心で楽しく生活をする。

この段階においては、自分に対する誠実さが一層求められる。特にその誠実さが内に充溢するだけでなく、外に向けて発揮されるように配慮する必要がある。そのことが、より明るい心となって表れ、真面目さを前向きに受け止めた生活を大切に、自己を向上させることにもつながっていく。さらに、一人一人の誠実な生き方を大切にしながら、みんなと楽しい生活ができるように指導していくことが大切である。

【小学校学習指導要領解説 道徳編】

(1) ねらいとする道徳的価値

指導内容1-(4)では、「誠実に、明るい心で楽しく生活する」ことをねらいとしている。ここでいう「誠実さ」とは、自分に対する誠実さのことである。それは、人が見ている、見ていないに関係なく、自分自身の良心に従うことである。今日の社会では、損得勘定で物事を計る風潮があり、「自分が損をしないように」という理由で行動を起こす人々も少なくない。しかし、本当に自分が大切にしたいことや、自分にとって意味のあることは、損得だけでは計れないものである。自分に対してごまかしたり言い逃れしたりせずに、自分が正しいと思うことや良いと思うことを貫こうとする姿勢が、自己を向上させ、明るく楽しい生活を送ることにつながっていく。

学校生活においては、毎日の家庭学習を真面目に取り組んだり、友達との関係を大切にしたりすることに「誠実さ」が表れてくると考えている。自分に誠実であれば、それは他者に対しても誠実であることにつながる。思春期に入り、自我の高まりとともに多感な時期を迎える子どもたちに、自分に対して誠実であることの大切さについて考えを深めさせたい。

(2) 子どもの実態

省略

(3) 資料について

「誠実」を主題として創作された物語である。

腕は良いがあまり売れない手品師は、大劇場に出ることを夢見ている。ある日、落ち込んでいる少年に出会った手品師は、彼を慰めるために手品を披露し、明日も来ることを約束する。その夜、友人から大劇場の出演の誘いを受けるが、葛藤の末に断る。次の日、少年の前で手品師はすばらしい手品を次々と見せた。手品師は良心に従い、自分に対して誠実に行動したのである。

5 研究内容との関わり

(1) 研究内容1 自己との対話

○ 求める子ども像

ねらいとする道徳的価値について自分の考えを自由にもてる子ども

他者の多様な考えに触れ、自分の思いや考えを明確にもてる子ども

自己との対話を深めるためには、自分自身とじっくり向き合うことが大切である。そのために、手品師がとった行動について、自分の考えをワークシートに記入する。また、「手品師のとった行動についてどう思うか」と投げ掛けることで、「賛成」「反対」などの行動の賛否の他に、「自分ならどうするか」という視点から考える子どももでてくると思われる。手品師の行動に対する賛否ではなく、そう考えた理由を考えて書かせるようにすることで「誠実さ」に対する思いを明確にもてるようにさせたい。

また、終末の場面には、これまでの自分の行動を振り返る活動も設定した。今回のねらいとする道徳的価値に照らし合わせ、自分はこれまでどのように行動してきたのが、自分に置き換えて考える自己との対話を通して、これからの課題をもつこともできると考えている。

○ 指導の工夫

- 子どもたちが何について考えればよいか焦点化できるように、ワークシートの内容を簡潔にする。(書く活動の工夫)
- 子どもたちがねらいとする道徳的価値について深く考えをもてるように、テーマ発問を用いる。(発問の工夫)

(2) 研究内容2 他者との対話

○ 求める子ども像

自分の考えを素直に伝え、他者の意見を共感的に聞くことのできる子ども

男の子との約束を守るか、夢の舞台の出演をとるか、手品師はどちらを選択すると思うか、子どもに発表させる。なぜそちらを選択すると思うか、理由もあわせて発表させることで、お互いの価値感の類似点や相違点に気付くことができる。また、どちらの意見が多いか、どちらが正しいかは関係なく、自分の考えを素直に話したり相手の考えを共感的に聞いたりする雰囲気を大切にしたい。そうすることで、友達の考えを肯定的に聞くことができると思う。

○ 指導の工夫

- 自分の考えを他者の考えと比較して考えることができるように、発表した意見を構造的に板書する。(意思表示の工夫)
- 受容的な雰囲気をつくりだすため、教師自ら子どもたちの考えを肯定的に受け止める姿勢を示す。(受容的・共感的雰囲気作りの工夫)

6 本時の展開

(1) 本時のねらい

いつも誠実に、明るい心をもって生活しようとする心情を育てる。

(2) 学習指導過程

指導過程	学習活動と主な発問	指導上の留意点(●) 評価(■)
導入	<p>誠実について考える。</p> <p>○ 「誠実」という言葉からどんなことをイメージしますか。</p> <p>○ 今日は「誠実」ということについて考えてみましょう。</p>	<p>● 主題を提示し、学習の方向付けをする。</p>
展開(前半)	<p>資料「手品師」の話を聞き、手品師の気持ちや行動を考える。</p> <p>○ 迷いに迷っている手品師はどんな気持ちだったでしょうか。</p> <p>○ 手品師はこのあと、どう行動すると思いますか。</p>	<p>● 資料は教師の範読のみとし、子どもに提示しない。</p> <p>● ワークシートへの記入と発表。</p>
展開(後半)	<p>手品師のとった行動から、何を大切にしようとしたかを考える。</p> <p>◎ 手品師のとった行動についてどう思いますか。</p> <p>○ 手品師は何を大切にしようとしたのでしょうか。</p>	<p>● ワークシートへの記入と発表。</p> <p>● 手品師は自分に誠実に行動したことを押さえさせる。</p>
終末	<p>「誠実」について自分の生活を振り返り、考えを交流する。</p> <p>○ 今まで「誠実」に行動できたことや、行動できなかったことはありますか。</p>	<p>■ 自分の心に誠実に行動することの大切さについて考えているか。</p>

◎中心発問：ねらいとする道徳的価値の自覚を深めるための発問

8 研究内容に関わる本時の検証

(1) 「自己との対話」について

ねらいとする道徳的価値について自分の考えを自由にもてる子ども

他者の多様な考えに触れ、自分の思いや考えを明確にもてる子ども

手品師の行動について、自分の考えをワークシートに記入させることで、より深く自己との対話を行うことができた。多くの子どもたちが、手品師の行動について共感し、「自分ならできないけど、手品師の行動は正しいと思う」「こういう行動ができた手品師はすごい」などという考えをもつことができた。

また、授業の最後に、自分の生活を振り返る時間を設けたことにより、授業のねらいである「誠実さ」について、これからの自分はどうかを考えることができた。小学校5学年の子どもたちにとって、資料の手品師のような体験はまだ少ないが、「友だちとの約束を自分の都合で破ってしまった」「友だちとの約束を守った」など、自分の身の周りのことに置き換えて考えることができた。

もう少しこの活動に時間をかけることで、道徳的価値を自分のこととしてより具体的に捉え、これからの自分の在り方や生き方について深く考えをもつことができたのではないかと考える。

(2) 「他者との対話」について

自分の考えを素直に伝え、他者の意見を共感的に聞くことのできる子ども

手品師はどんな選択をするかという発問に対して、子どもたちは予想以上に様々な理由を考えて発表していた。これは、自己との対話（書く活動）によって考えを明確にすることで子どもたちが自信をもって発表することができたからではないかと考える。また、この資料において主人公の気持ちになって、手品師の次の行動を予測するという活動は、とても意味のあるものであった。しかし、その前の葛藤する手品師の心情を考える活動に時間をとられ、話し合う時間を十分にとることができなかった。お互いに自分の考えを発表し合うだけでなく、「大劇場に行く」と考えた子どもと、「男の子の所へ行く」と考えた子どもに、それぞれの立場で話し合いをさせることができれば、さらに他者の多様な考えや感じ方について共感的に理解することができたと考えられる。